

◆リスト案についての入力フォーム◆

必要に応じてセルの追加、高さ調整をして下さい。

分類群	No.	種名	指摘事項、情報	根拠資料 (事項aについては必ずご記入 下さい)
植物	5	ノルウェーカエデ	近年庭木等として用いられている。未定着とされているが、侵略性が高いと判断される科学的根拠を示してほしい。栽培成績からは、少なくとも暖地では非常に弱い。	会員からの情報
植物	6	ホソグミ	庭木として用いられる場合もある。未定着とされているが、侵略性が高いと判断される科学的根拠を示してほしい。	会員からの情報
植物	16	ギンドロ	防風林や公園樹として古くから国内で広く用いられており、分布限定とは言えない。利用側から言えば蔓延に近い。北海道で被害があるとのことだが、重要地域等での記録がない。どのような被害があるのかわからず、検討できないので根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	37	栽培キク属	言うまでもなく古くから広汎に栽培され、皇室の紋章とされるなど、日本文化の象徴的存在である。したがって、分布限定という位置づけはおかしい。属レベルで記載する理由が記されていない。重要地域での被害も報告されておらず、現状の情報内容では、明らかに掲載すべきでない。	会員からの情報
植物	41	アツバキミガヨラン	庭木や公園樹として古くから国内で広く用いられており、分布限定とは言えない。利用側から言えば蔓延に近い。自然環境での分布が少ないとすれば、その侵略能力は低いと見るべきではないか。ハギクソウの近くに生育するとのことだが、その個体群の存続に被害を与えているかどうかエビデンスを示していただきたい。	会員からの情報
植物	44	コンテリクラマゴケ	園芸利用される。重要地域で重大な被害があるとのことだが、具体的な内容を示していただきたい。	会員からの情報
植物	49	ヒイラギナンテン	庭木としてすでに広く用いられている。都市近郊の二次林に逸出しているのを見かけるが、その生物多様性に大きな影響を与えているほどとは思われない。資料中にも重要地域への侵入の記録がない。被害の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報

植物	54	ピラカンサ類	庭木として古くから用いられており、利用としては蔓延に近く、分布拡大期との評価はあたらぬ。重要地域での被害があるとあるが、備考には河川に逸出とあるだけである。河川は変動環境であるうえに、近年の河川の水文体制や流砂体制等の基盤的な環境条件が大きく変化している。そのような条件下での生態的評価からでは、客観的な生物の侵略性評価は難しいと考える。具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	103	モリシマアカシア	公園樹や庭木として用いられる。それほど逸出しているとは思われないが、重要地域で被害の実態がそのようなので、より広く具体的な情報を示されたい。	会員からの情報
植物	57	オオキバナカタバミ	園芸利用される。じわじわと広がっているとあるが、具体的にどのような空間に広がっており、生物多様性保全上どのような危惧があるか示してほしい。	会員からの情報
植物	59	ナンキンハゼ	紅葉が美しく、公園樹等として広く用いられている。湿地環境で強く、侵略性のおそれはあるが、重要地域で被害とあるが、具体的な記述がないので示していただきたい。	会員からの情報
植物	60	シナアブラギリ	重要地域への侵入の記録がなく、「在来種の樹林に侵入し競合するおそれ」が示されているだけである。導入は古く、現状で被害がなければ、問題にする必要はないと考える。具体的な被害の証拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	67	ヨウシュハッカ	園芸利用される。在来種 of ヒメハッカと交雑するという被害かと推測されるが、掲載理由が明示されていないので、明らかにしていただきたい。	会員からの情報
植物	68	マルバハッカ	園芸利用される。在来種 of ヒメハッカと交雑するという被害かと推測されるが、掲載理由が明示されていないので、明らかにしていただきたい。	会員からの情報
植物	69	アメリカハッカ	園芸利用される。備考で触れられている在来種 of ヒメハッカと交雑するという被害かと推測されるが、掲載理由が明確とは言えないので、明らかにしていただきたい。	会員からの情報
植物	70	フサフジウツギ	園芸利用される。路面間隙雑草とのことだが、重要地域への侵入はない。掲載理由が不明確なので、具体的な被害について証拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	76	ネバリノギク	園芸利用され、すでに野草として認識される場合もある。北海道で問題が発生していることだが、被害の内容を示していただきたい。	会員からの情報

植物	76	ユウゼンギク	園芸利用され、すでに野草として認識される場合もある。北海道で問題が発生していることだが、被害の内容を示していただきたい。	会員からの情報
植物	84	ノハラタカラクサ	園芸利用される。重要地域で重大な被害とあるので、その具体的内容を示していただきたい。	会員からの情報
植物	90	アメリカスズメノヒエ (バヒアグラス)	法面・治山緑化利用される。暑さや乾燥に強いいため、南西諸島で重要な緑化植物となり、現在のところ当該地域では代替できる植物は少ない。重要地域で被害があるとされるが、被害内容を示してほしい。	会員からの情報
植物	100	ムシトリナデシコ	園芸利用される。重要地域で被害があるとされるが、どのような被害が生じているか明示していただきたい。	会員からの情報
植物	104	園芸スイレン	言うまでもなく、古来より広く園芸利用されている。園芸スイレンとひとくりにされては対策の施しようがない。種・品種毎に被害等の記述を求める。	会員からの情報
植物	106	セイヨウカラシナ	古くから広く農業利用される。重要地域で被害があるとされるが、どのような被害が生じているか明示していただきたい。	会員からの情報
植物	107	セイヨウアブラナ	古くから広く農業利用され、広く園芸利用される。重要地域で被害がない。掲載理由が不明確なので、具体的な被害について証拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	108	オランダガラシ	農業的にも園芸的にも利用される。重要地域で被害があるとされるが、そのような被害があるか明示していただきたい。	会員からの情報
植物	109	ショカツサイ	古くから帰化し、土手の植物として広く親しまれ、市民に播種されることもある。スミレ類やアマナを駆逐しているとあるが、目の敵にするほどの侵略性があるか疑いがある。	会員からの情報
植物	111	ビワ	農業用にも、庭木としても古くから広く栽培される重要な植物である。近年温暖化した都市域周辺で自生分布を拡大している。重要地域で被害があるとされるが、どのような被害が生じているか明示していただきたい。	会員からの情報

植物	103	シロツメクサ	飼料用、緑化用、園芸用に古くから広く利用され、また愛されている重要な植物である。重要地域で被害があるとされるが、どのような被害が生じているか明示していただきたい。園芸的には、防除が難しい雑草でもあるが、グラウンドカバーとしての便益の高さを考えれば、リスト指定には値しない。	会員からの情報
植物	113	エニシダ	庭木として利用される。法面緑化用としては現在少ないが使われることがある。重要地域での被害の記録はない。掲載理由が不明確なので、具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	119	外来クサフジ類	Vicia spp.ではソラマメが含まれる。混乱するので、種単位で記述していただきたい。	会員からの情報
植物	126	ツルニチニチソウ	広く園芸利用される。重要地域で被害があるとされるが、どのような被害が生じているか明示していただきたい。	会員からの情報
植物	132	外来ノアサガオ類	Ipomoea spp.ではサツマイモやエンサイ等が広く含まれる。混乱するので、種単位で記述していただきたい。重要地域で被害がない。掲載理由が不明確なので、具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	149	ハルシャギク属	園芸利用される。混乱するので種毎に記載していただきたい。重要地域で記載がない。掲載理由が不明確なので、具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	153	ハルジオン	代表的な雑草だが、今や人に親しまれる野草でもある。蔓延しているにも関わらず、重要地域での被害報告がない。現状の情報内容では、掲載理由として弱いのではないか。	会員からの情報
植物	156	キクイモ	古くからの救荒作物である。蔓延しているにも関わらず、重要地域での被害報告がない。掲載理由が不明確なので、具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	158	フランスギク	園芸利用される。蔓延しているにも関わらず、重要地域での被害報告がない。掲載理由が不明確なので、具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報

植物	167	ハナニラ	広く園芸利用される。土手等に繁茂した場合、在来植物に被害とあるが、そのようなケースがそれほどあるのか？重要地域での被害は報告されていない。掲載理由が不明確なので、具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	170	ヒメヒオウギズイセン	園芸利用される。重要地域での被害報告がないが、丁寧な記述をお願いしたい。	会員からの情報
植物	172	ヌカグサ(レッドトップ)	寒冷地の法面・治山用緑化植物として用いられる。代替できるイネ科植物はあるが、他種もリスト候補種となっているので問題。品種は多いので、侵略性の低い品種を選択できる可能性はあり。対応検討のため、被害があるとされる自然草原のタイプや分布等の状況もより詳細に示してほしい。	会員からの情報
植物	178	カモガヤ(オーチャードグラス)	法面・治山用緑化植物として、耐陰性にすぐれ、その面で代替できる植物は少ない。播種量が多すぎないようにコントロールするのが適当。花粉症被害も報告されている。対応検討のため、被害があるとされる自然草原のタイプや分布等の状況もより詳細に示してほしい。	会員からの情報
植物	180	オニウシノケグサ(トールフェスク)	法面・治山用緑化植物として、もっとも広汎に用いられる最重要な植物である。それらの緑化では、リスク分散のため、一般に複数種の混播が行われるが、環境適応性が広いため、多くの場合、その基本種となる。不稔性品種等、侵略性の低い品種が開発されており、それらの利用が勧められるが、コスト高となるため、その負担を公共事業の発注者である国や地方自治体が負う必要がある。対応検討のため、被害があるとされる自然草原のタイプや分布等の状況もより詳細に示してほしい。	会員からの情報
植物	182	ドクムギ属	法面・治山・河川堤防用、サッカー・ゴルフ・学校緑化等のスポーツターフ用緑化植物として広く用いられる重要植物である。牧草でもあり、播種範囲がきわめて広いこと、多くの雑種が自然発生していることから、細かく対応を整理する必要がある。対応検討のため、被害があるとされる自然草原のタイプや分布等の状況もより詳細に示してほしい。	会員からの情報
植物	184	オオアワガエリ(チモシー)	寒冷地の法面・治山用緑化植物として用いられる。対応検討のため、被害があるとされる自然草原のタイプや分布等の状況もより詳細に示してほしい。	会員からの情報

植物	190	アメリカネムノキ (台湾ネムノキ)	沖縄県内で緑陰樹として限定的に用いられているが、逸出例の報告もないので、掲載理由が不明確である。具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	191	イヌナツメ(インドナツメ)	沖縄県内では植木市での苗木販売が増えてきた。個人庭園利用の自家消費が中心であり、逸出事例の報告もないので、掲載理由を明示してほしい。	会員からの情報
植物	196	シコンノボタン	園芸用として広く利用されている。繁殖は挿し木によるので、逸出による分布拡大及び重要地域への侵入の可能性は低いと考えられる。掲載理由を明示していただきたい。	会員からの情報
植物	204	オオバナアサガオ	半ツル性の観賞用熱帯花木として利用されており、散布による分布拡大・拡散もないので、掲載には当たらないと考える。	会員からの情報
植物	206	ヒメノウゼンカズラ	観賞用熱帯花木として以前から広く利用されている。逸出被害の報告もないので掲載理由が不明確である。具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	207	ベンガルヤハズカズラ (ウリバローレルカズラ)	観賞用ツル性花木としてパーゴラ・フェンス・壁面等で広く利用されている。逸出による分布拡大もなく掲載理由が不明確である。具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	211	アツバチトセラン (サンスベリア)	観賞用として広く栽培され定着しているものであり、掲載理由が不明確である。具体的な被害等、掲載の根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	216	パンノキ	沖縄県内には、食用に適さない有核種(種あり)タイプが公園等に植栽され、樹高が10mを超えるものもあります。沖縄本島における観察では、樹下での実生苗発生はありますが、鳥散布によると思われる観察例はありません。掲載理由が不明確なので、具体的な被害等、根拠資料を示していただきたい。	会員からの情報
植物	217	トクサバモクマオウ (トキワギョリュウ)	沖縄県内では、古くから海岸沿いの防風樹として利用され、なくてはならない存在となっている。定着し広範に利用されているので掲載すべきではないと考えます。	会員からの情報
植物	228	フヨウ	沖縄県内に自生しているフヨウ(サキシマフヨウとも呼ぶ)と種名が同一であると考えますが、そうであれば、既に定着していることになるのではないかと。	会員からの情報

植物	230	テリハバンジロウ	沖縄県では、自家消費用果樹として栽培されている。利用状況の中で、「逸出帰化した例は報告されていない。」とあるのに、分布拡大・拡散被害が全て◎なのは整合性に疑問が残る。	会員からの情報
植物	231	フトモモ	沖縄県内の溪流沿いに古くから自生しており、最近では分布域が減少しているようにも見受けられ、侵略的とするには疑いが残る。	会員からの情報
植物	233	シチヘンゲ(ランタナ)	トロピカルな雰囲気を出すため、公共施設や個人庭園になくはない存在となっている。また、周年開花のため蝶類にとって貴重な蜜原植物でもある。最近の園芸改良種は実生繁殖をしないタイプもあるので、区別して掲載していただきたい。	会員からの情報

(意見聴取事項b及びeについて上記フォームに記入が難しい場合はこちらにご記入ください。資料に具体的な指摘箇所がある場合は、資料番号及びページ、項目名等を記載してください。)

- ・タイトル:「侵略的」とするリストのタイトルは、植物を利用する立場の関係者から反発が強い。対策を今後協力的に進めていくためには、通称を「ブルーリスト」などより柔らかい名称にし、正式名称を「侵略性が危惧される外来種リスト」などとする、あるいは単に外来種リストとして、その中の有用植物は「利用や管理方法に配慮が必要な有用植物」として整理してはどうか。
- ・全体:現在のリストの候補種には、有用植物が多く含まれている。リスト掲載によって、その利用に大きな社会的制限がかかり、関係者には損害を与えることになるので、掲載については、生態的被害が深刻であることを真に示す根拠の明示が必要である。一方、絶滅危惧評価と異なり、侵略性の評価は科学的に確立しているとは言いがたく、リストアップにあたっては慎重な検討をお願いする。とりわけ、従来から利用されている種については、不確かな予測が紛れ込む可能性のある侵略性の評価だけでは、対策検討の観点からしても不十分であり、生物多様性保全上重要な地域等への具体的影響について、具体的な場所、立地条件、群落型、影響を及ぼしている対象の植物種(または種群)と影響の種類、侵入個体群の経年変化状況など、エビデンスを示していただきたい。種毎の詳細なコメントは上記を参照されたい。
- ・資料2-1、5頁、下から10行:「分布拡大の阻止、国内からの根絶」→「国内からの根絶、分布拡大の阻止」・・・この段階では、第一義に根絶を目指すべきではないか。
- ・資料2-1、5頁、下から6行:「地域的な根絶(取り除き)による分布拡大の阻止」→「地域的な根絶(取り除き)、分布拡大の阻止」・・・(理由)根絶と封じ込めは別の対策手法であり、区別すべきである。